



挑む

カーリング
堀籠 司君
(軽井沢高校3年)

先月、オーストリアで開かれた第1回冬季ユース五輪のカーリングに出場した。通常は男女別にチームを組むが、今回は男女計4人でチームを編成し、団体種目に臨んだ。結果は決勝トーナメントの準々決勝で敗れ7位。ロシアの女子選手と組んで出場した混合ダブルスも、準々決勝で敗れた。ともに1点差の惜敗。「先攻と後攻では戦い方が変わる。もっと落ち着いて判断して

冬季ユース五輪で、 大きな手応えつかむ

いれば、結果は変わったかもしれない。ただ、強いチームがそろった中で互角に戦えたことは今後の自信につながると思う」

カーリングを始めたのは小6から。同学年の友人で、現チームメイトでもある速水港君(御代田町)に誘われ、住まいのある御代田町のスポーツ少年団に入ったのがきっかけだった。続けるにつれ、カーリング特有のゲーム性に魅力を感じるように。高1のとき県選抜チームで出場した日本ジュニア選手権大会で3位となり、2年、3年ではともに4位。安定した成績を残し、16歳と17歳が対象の日本代表に選ばれた。

初めての国際大会を経験した今、掲げる目標は「世界に通用する選手になること」。進学し地元を離れる可能性も示唆(しさ)するが、競技は続ける意向。まなざしは先を見据えている。